

二つの皮袋

大昔、神様が人間をつかれた時、二つの皮袋を彼らの肩にぶらさげる様になさいました。その皮袋には、人間の持っている「悪」が入っていました。肩から下げたうしろの袋には、その男の「悪」がつまっていましたし前にかけた袋には他人の「悪」が入っていたのです。

この様なことから人間は前にある他人様の欠点や悪いところはよく見えて批判がましいことを口にするが、自分の事や欠点は全く見えない存在になりました。



バラと鶏頭

バラのそばに生えていた鶏頭の花がバラを見上げてしみじみと言いました。「あなたはなんて美しいのでしょうか。みんなの人に愛されて、美しい姿とかぐわしい香りを合わせ持っておられる。本当にお幸せそうですわ」「しかしね、私の生命は短いのです。たとえ人が摘み取らなくてもすぐに萎んでしまいます。そこへいくと貴女はいつまでも花盛りで娘さんの様ですよ」



鳩とカラス

鳩小屋で美味しそうな餌をついばんでいる鳩の姿を羨ましくみていたカラスは自分の羽の色をかえて鳩小屋の生活に紛れ込みました。始めはうまくいっていましたが、ある時うっかり鳴き声を出したために疑われ小屋を追い出されてしまいました。おいしい餌にありつけなかったカラスは再びもとのカラスの群れに帰ってきましたが、ここでも羽の色の違いから相手にされなかったばかりかもとの生活にも戻れませんでした。

